２年

内容解説資料

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4月	**見えないだけ** **１時間** ◎語句について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 詩を読み取る。 ・好きな言葉や表現をノートに書き写し、その理由をまとめる。 ◇言葉や表現が生み出している効果についても確認させる。 2 好きな言葉や表現を発表する。 ◇共感できた考えや自分にはなかった考えをノートにまとめさせる。 3 詩の特徴を生かして朗読する。 ・友達の発表を聞いて考えたことも踏まえて、詩の内容が効果的に伝わるように工夫して朗読する。	【知・技】語句について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →詩の中に出てくる好きな言葉や表現を、理由とともにまとめている。 【態】進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
1　広がる学びへ				
4月	**アイスプラネット** **漢字に親しもう１** **４時間** ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1 2 3 4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →二次元コード「イヌイット」 2 登場人物の設定を確かめる。 ・冒頭部から読み取れるぐうちゃんの人物像を捉える。(課題1-①) ・人物どうしの関係を図で整理する。(課題1-②) ・ぐうちゃんに対する「僕」「母」「父」、それぞれの思いがわかる言動や表現を挙げて関係を捉え、図に書き加える。(課題1-③) →P27カギ「登場人物の設定を捉える」 →P276資「『学びのカギ』一覧」(文学) →二次元コード「学びの地図」 3 ぐうちゃんに対する「僕」の思いを読み取る。 ・ぐうちゃんのほら話に対する「僕」の気持ちの変化を捉える。(課題2-①) ・「それ以来、僕は二度とぐうちゃんの部屋には行かなかった。」のはなぜかを考える。(課題2-②) ・手紙と写真を受け取ったときの「僕」の気持ちを、ぐうちゃんの考えや思いを踏まえて想像する。(課題2-③) ◇手紙の文面から、ぐうちゃんの考えや思いを踏まえさせる。 4 ぐうちゃんに対する自分の考えをまとめる。(課題3) ・ぐうちゃんの考え方や生き方について、自分の生活や経験などと比べながら、考えたことをまとめる。 5 学習を振り返る。 →P27言の葉 ・登場人物の設定を図で整理することには、どんな効果があったか、自分の言葉でまとめる。 ・どんなところに着目して登場人物の設定を捉えたか、自分の言葉でまとめる。 ・これまでに読んだ作品を一つ取り上げ、人物の設定を図で整理する。	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ) →登場人物どうしの関係や人物像を図式化して整理している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →ぐうちゃんの人物像や、登場人物どうしの関係を文章から読み取り、図にまとめている。 【態】登場人物の設定のしかたなどを積極的に捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
	◎第１学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字		6 P28「漢字に親しもう１」に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」	【知・技】第１学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		→P308資「二年生で学習した漢字」 →P321資「二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)ウ) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
4月	[聞く] **意見を聞き、整理して検討する** **1時間** ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 二次元コードの音声を聞いて、水島さんと今西さんの意見と根拠を表で整理し、根拠の適切さを評価する。 ・根拠の客観性や信頼性を確かめたり、意見と根拠の結び付き(「理由づけ」)に無理や飛躍がないか検討したりする。 →二次元コード「二人の意見」 2 整理した表を基に、自分はどちらの意見に納得できるか、考える。 ・ペアやグループで意見や根拠の適切さについて話し合って考えを深める。 ◇自分はどちらの意見に近いか、二人の示したものの他に適切な根拠や「理由づけ」のしかたがないかを考えさせるとよい。 3 学習を振り返る。 ・聞き取った意見と根拠を整理し、根拠の適切さについて検討することができたか、確かめる。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →意見と根拠を区別して捉え、適切な根拠の在り方について理解を深めている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →発言者の立場を踏まえ、それぞれの意見と根拠を整理して考えをまとめている。 【態】進んで意見と根拠の関係を整理しながら聞き、今までの学習を生かして根拠の適切さなどについて検討しようとしている。
4月	**文法への扉1** **単語をどう分ける?** **文法1　自立語** **2時間** ◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(知・技(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 P31の導入や解説を読み、単語が幾つかの観点で分類されることを確かめ、そのうち「自立語」について学ぶことを理解する。 →二次元コード「文法ワーク」 2 P242「文法1　自立語」を読み、自立語の各品詞の性質などについて理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 →二次元コード「練習問題」 ・P242下段「話すこと・書くことに生かす」を読み、ここでの学習を今後の学習に生かせるようにする。	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。((1)オ) →自立語にどんな品詞があるかを知り、それぞれが文の中で果たす役割について理解を深めている。 【態】学習課題に沿って、積極的に自立語について理解を深めようとしている。
5月	**魅力的な提案をしよう** **資料を示してプレゼンテーションをする** **5時間** ◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくこと	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 提案内容を決める。 ・誰に(相手)、何を(話題)、何のために(目的)提案するかを確かめる。 ・現状の課題を見つけ、その解決策を基にするな	【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。((1)ア) →相手が自ら行動したいと思えるような言葉や表現を用いることを意識している。 【思・判・表】

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	ができる。(知・技(1)ア) ◎自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。(思・判・表A(1)イ) ◎資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)	2-3 4-5	どして、提案内容を決める。 →二次元コード「表現テーマ例集」 ◇相手が何を知りたいのかを考えさせるとよい。 2 話の構成や表現を工夫する。 ・グループで進行案を作り、話の構成や提示する資料、役割分担などを考える。 →P35言の葉 →P286資「グラフの見方／引用・出典」 ◇提示資料の情報は必要最低限に絞らせる。 ◇写真などを引用する場合は、出典を明記させる。 ・資料を提示しながら話す練習をする。 →P33カギ「資料や機器を活用して話す」 →P280資「『学びのカギ』一覧」(話す・聞く) →二次元コード「学びの地図」 ◇資料を提示するタイミングを考えたり、聞き手を意識して話し方に変化をつけたりさせるとよい。 3 プレゼンテーションをする。 ・クラスの人たちに向け、グループごとにプレゼンテーションをする(録画する)。 →二次元コード「プレゼンテーションをする」 →P29「[聞く]意見を聞き、整理して検討する」 →P35「達人からのひと言」 →P341資「ICT活用のヒント」 ◇聞き手には、話の構成や話し方に注意させ、質問を考えながら聞くようにさせる。 4 学習を振り返る。 ・いちばん心が動かされた提案をクラスで選び、理由を含めて話し合う。 ・録画したプレゼンテーションを視聴し、よかった点や改善点を話し合う。 ◇話し方や話の構成、資料や機器の使い方など、振り返りの観点を明確にするとよい。 ・言葉には、相手の心を動かし、行動を促す働きがあることを、学習のどのような場面で実感したか、自分の言葉でまとめる。 ・聞き手の印象に残るプレゼンテーションにするために、話の構成や資料の作成において、どのような工夫をしたか、自分の言葉でまとめる。 ・クラスでの発表を振り返り、次に何かを提案するときには、どんな点を工夫したいか考える。 ◇P32「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →重要なことが効果的に伝わるように話の構成を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →プレゼンテーションソフトやフリップなどを用いて、提案内容が視覚的にもわかりやすくなるよう工夫している。 【態】自分の考えがわかりやすく伝わるように粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとしている。
5月	**枕草子** **[書く]自分流「枕草子」を書こう** **3時間(読②書①)** ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。(知・技(3)イ) ◎文章を読んで理解したことや	1 2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1「枕草子」を音読し、古文を読み味わう。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・現代語訳を参考に情景を想像し、古文を音読する。 →二次元コード「朗読音声」 ◇心に残った季節の一節を暗唱させてもよい。 ◇関連図書などを活用するとよい。 2 作者のものの見方や感じ方を読み取る。 ・冒頭を読み、作者が四季のどんなところに趣を感じているのかを整理し、自分が感じる四季の趣と比べる。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →古典の文章独特の調子やリズムを意識して音読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。((3)イ) →現代語訳や語注を手がかりに「枕草子」を読み、作者のものの見方や考え方を捉えている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★古典作品などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★随筆を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(思・判・表B(2)ウ)	3	・P38の章段を読み、作者が「何」の「どんな」様子を「どう」感じているのかについて整理する。 ◇P39のコラム「枕草子」を参考にしながら、「枕草子」の特徴を捉えさせる。「徒然草」の学習と関連させてもよい。 →P154「仁和寺にある法師」 3 自分流「枕草子」を書く。 →P39「自分流『枕草子』を書こう」 ・「枕草子」の形を借りて、自分ならではの季節感を表す文章を400字程度で書く。 4 学習を振り返る。 ・作者のものの見方や考え方について、印象に残っているものを、理由とともに挙げる。 ・書いた「自分流『枕草子』」を、友達と読み合い、感想をまとめる。 ◇自他の季節の捉え方の共通点や相違点を明らかにしながら感想をまとめさせる。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →作者の考えと自分の考えとを比較し、感じたことをまとめている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →生活を振り返って、自分ならではの季節感を表すものを見つけている。 ・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →季節感を表すものについて、その様子が具体的に想像できるよう、語句や表現を選んで書いている。 【態】文章を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書こうとしている。
5月	**季節のしおり　春** ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	－	・春の行事・暦に関わる言葉や、春の情景を詠んだ短歌や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P66「短歌の創作教室」、P110「表現を工夫して書こう」、P224「描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇春をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →作品中の「春」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
2　多様な視点から				
5月	**クマゼミ増加の原因を探る** **４時間** ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人	1 2 3-4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →P51言の葉 2 全体と部分の関係に注意して、構成を捉える。 ・「研究のきっかけ」に示された文章全体に関わる問題提起と、その問題についての大きな仮説を確かめる。(課題1-①) ・線や矢印を使って、文章を構成する六つの部分の関係を整理する。(課題1-②) ◇「前提」を受けて「仮説1～3」があり、それらの検証によって「まとめ」が導き出されていることがわかるように整理できるとよい。 3 文章と図表の関係に注意して、内容を読み取る。 ・三つの仮説に対する検証の内容とその結果を、図表や写真との関係に注意し、それぞれ文章中	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ) →文章を構成する六つの部分の関係を図式化して整理している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。(C(1)ア) →筆者の主張を捉え、それと仮説1～3との関係を理解している。 ・「読むこと」において、文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。(C(1)ウ) →文章中の図表やグラフが何のために示されているのかを、対応する文章を基に考えている。 【態】積極的に文章と図表などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	間性等) ★報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)		の言葉を用いて簡潔にまとめる。(課題2-①) →P51カギ「文章と図表を結び付けて読む」 →P278資「『学びのカギ』一覧」(説明文) →二次元コード「学びの地図」 ◇図表や写真と結び付いている箇所を本文から探して線を引かせるとよい。 ◇P49の図が「仮説2」と「仮説3」を整理したものであることを確認する。 ・「研究のきっかけ」に示された大きな仮説は証明されたといえるか、筆者の考えと、自分の考えを書く。(課題2-②) 4 考えたことを話し合う。(課題3) ・筆者は、なぜ結果的に否定された説と、その検証結果も示したのか、考えたことをグループで話し合う。 5 学習を振り返る。 ・図などを用いて情報を整理することには、どんな効果があったか、自分の言葉でまとめる。 ・文章の内容を読み取るうえで、最も効果的だと感じた図表や写真はどれか、理由も含めて考えをまとめる。 ・図表を含む文章の読み方が、日常生活のどんな場面で活用できるか挙げる。	考えたことを話し合おうとしている。
6月	**情報整理のレッスン** **思考の視覚化** **1時間** ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を読み、情報の関係を整理して、視覚的に表す方法を理解する。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇「観点」、「階層」、「軸」などの用語を理解させ、今後の学習に生かせるようにしておくとよい。 2 問題1～3に取り組む。 ◇文章で書くのではなく、単語や一文など短い表現を使うように促す。 ◇視覚的にわかりやすくなるように、付箋や色ペンなどを準備して使わせてもよい。 3 学習を振り返る。 ・情報を書き出して整理し、関係を図で表す四つの方法についてポイントを確認する。	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ) →問題1～3に取り組み、情報と情報との関係を図で表している。 【態】積極的に情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し、学習したことを生かして練習問題に取り組もうとしている。
6月	**情報を整理して伝えよう** **職業ガイドを作る** **5時間** ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★多様な考えができる事柄につい	1-2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組ませるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 題材を決め、情報を集める。 ・調べる職業を決め、知りたい項目を挙げる。 ・知りたいことに適した調べ方を考え、多様な方法で情報を集める。 →P284資「インタビューをする」 →P285資「インターネットの活用」 →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) ◇図書館や資料館、インターネット、インタビューなど、多様な情報収集の方法を考えさせる。 ◇複数の情報源で調べる、出典を明らかにするなど、既習事項を想起させる。 2 集めた情報を整理する。 ・集めた情報を、図や記号などを使って整理する。	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ) →集めた情報を表や図にまとめ、整理している。 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →知りたいことに適した方法を考えて情報を収集し、収集した情報を分類・整理して自分の目的に合うものを取捨選択している。 【態】多様な方法で集めた情報を粘り強く整理し、学習の見通しをもって職業ガイドを作ろうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	て意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)		・目的に合わせて、情報を取捨選択する。 →P29「[聞く] 意見を聞き、整理して検討する」 →P52「情報整理のレッスン 思考の視覚化」 →P55カギ「多様な方法で集めた情報を整理する」 →P280資「『学びのカギ』一覧」(書く) →二次元コード「学びの地図」	
		3	3 紙面構成を考える。 ・見出しや文章、図・表、グラフ、写真などの配置を考えて、紙面を構成する。 ◇タブレット端末などを用いて、紙面構成を考えさせるとよい。 →P341資「ICT活用のヒント」	
		4	4 紙面を作成する。 ・簡潔な文章を心がけて書く。 ・推敲し、清書する。 →P57言の葉 ◇見出しを付け、簡潔な文章にするよう留意させる。	
		5	5 感想を伝え合う。 ・作品を読み合い、感想を伝え合う。 ◇わかりやすかったところや、説明の順序や分量、紙面の工夫などについて考えさせる。 6 学習を振り返る。 ・情報を図や記号で整理することには、どのような効果があるか、自分の言葉でまとめる。 ・読み手に何を伝えたいと考え、そのために、集めた情報をどのように整理したか、自分の言葉でまとめる。 ・集めた情報を整理するうえで、いちばん役に立った方法を理由も合わせて書く。 ◇P54「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	
6月	**漢字１　熟語の構成** **漢字に親しもう２** **１時間** ◎第１学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を読み、熟語の構成の種類について理解する。 ◇身の回りにある熟語を挙げさせ、その構成を説明させてもよい。 2 練習問題に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」 3 P60「漢字に親しもう２」に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308資「二年生で学習した漢字」 →P321資「二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】第１学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)ウ) →熟語の構成を意識しながら、漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
３　言葉と向き合う				
6月	**短歌に親しむ** **[書く] 短歌の創作教室** **短歌を味わう** **５時間（読②書③）** ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 P62「短歌に親しむ」を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 短歌を音読し、解説の内容を捉える。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →情景などを表す語句に着目して作品を読み深めている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)エ） ◎観点を明確にして短歌を比較するなどし、表現の効果について考えることができる。（思・判・表C(1)エ） ◎短歌を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★短歌などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。（思・判・表C(2)イ） ★短歌を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。（思・判・表B(2)ウ）	2 3 4-5	・歌われている情景を想像しながら、短歌を声に出して読む。（課題1-①） ・短歌とはどんなものか、筆者がその形式や歴史について説明している部分に線を引く。（課題1-②） 3 短歌に用いられた、表現の効果を考える。 ・それぞれの短歌に描かれた情景や心情と、筆者が着目した表現、その表現の効果として示されていることをまとめる。（課題2） ◇筆者が着目した表現やその効果の他に、生徒自身が着目した部分があれば、それを書かせてもよい。 4 好きな短歌を選び、感想を書く。（課題3） ・本文やP68「短歌を味わう」から好きな1首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書く。 ◇グループごとに1首ずつ担当したり、グループの中で各人が1首ずつ担当したりするなど、状況に合わせて活動させる。 5 学習を振り返る。 ・情景や心情を描写する語句のうち、感想を書くときに特に注目したものはどれか、自分の言葉でまとめる。 ・筆者の解説を読んで初めて気づいた着眼点や表現の効果には、どのようなものがあったか、自分の言葉でまとめる。 ・短歌の創作に生かせそうなことを挙げる。 6 P66「短歌の創作教室」に取り組む。 ・「準備体操」に取り組み、短歌を作る練習をする。 ・出来事や場面を決めて、短い文章を作る。 ・作った文章を基に、最も伝えたいことを決め、短歌を作る。 ・言葉の順序を入れ替えたり、比喩や体言止めなどの表現技法を使ったりして、表現を工夫する。 ◇言葉を集める際、P9「思考の地図」のマッピングを活用することもできる。 →P14「続けてみよう」 →P268「語彙ブック」（感覚で捉えた言葉） ・完成した作品を集めて、感想を伝え合う。	→情景や心情が生き生きと伝わる言葉を選んで短歌を創作している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にして短歌を比較するなどし、表現の効果について考えている。（C(1)エ） →複数の短歌を比較し、歌われた情景や心情、表現とその効果について考えている。 ・「読むこと」において、短歌を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） →好きな一首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書いている。 ・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。（B(1)ウ） →自分の思いが伝わるように、学習した短歌の形式や表現の工夫を参考にして短歌を作っている。 【態】表現の効果について進んで考え、学習の見通しをもって短歌を創作しようとしている。
6月	**言葉の力** **２時間** ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。（知・技(3)エ） ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人	1 2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 文章の内容を捉える。（課題1） ・三つのまとまりそれぞれの内容を確認する。 3 筆者の考え方を読み取る。（課題2） ・「言葉の世界での出来事と同じこと」とあるが、筆者は、何と何が、どのように同じだと述べているのかを考える。 4 筆者の考え方について話し合う。（課題3） ・美しい言葉、正しい言葉に対する筆者の考え方について、自分はどのように考えるか、知識や経験を踏まえて話し合う。 5 学習を振り返る。 ・この文章を読むことで、どのようなものの見方や考え方を得ることができたか、自分の言葉で	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。（(3)エ） →本や文章を読み、さまざまなものの見方・考え方に触れることで、自分の考えを広げたり深めたりできることを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） →言葉に対する筆者の考え方について自分の考えをもち、話し合っている。 【態】文章を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、今までの学習を生かして考えたことを

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	間性等) ★随筆を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)		まとめる。 ・どのような知識や経験と結び付けて、筆者の考え方を捉えたか、自分の言葉でまとめる。 ・自分の考えが深まるきっかけになった友達の発言を挙げる。	伝え合おうとしている。
7月	**言葉1　類義語・対義語・多義語** **語彙を豊かに** **抽象的な概念を表す言葉** **2時間** ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1 2	1 P72導入の課題に取り組み、言葉どうしの関係性について関心をもつ。 2 教材文を読み、類義語・対義語・多義語について理解する。 ・例を基にして、それぞれの語がどのような関係にあるのかを考える。 →P272「語彙ブック」(抽象的な概念を表す言葉) ◇類義語には、意味が微妙に違うものや、意味は同じでも語感が違うものがあることに気づかせるとよい。 ・P73「生活に生かす」を読み、言葉の幅を広げるのに、類義語・対義語に注目するとよいことを知る。 →二次元コード「漢字の練習」 3 P74のリード文を読み、抽象的な概念を表す言葉を探す。 →P272「語彙ブック」(抽象的な概念を表す言葉) 4 3で集めた言葉の類義語や対義語を集める。 ◇国語辞典や類語辞典などを活用させるとよい。 →P72「言葉1　類義語・対義語・多義語」 5 言葉を比べ、用例を考える。 ・集めた言葉を比べ、気づいたことを文章にまとめる。 ◇下段「語感を磨く」を参考にさせるとよい。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →類義語・対義語・多義語の概念について、具体例を当てはめて理解している。 →抽象的な概念を表す語句について、類義語や対義語と比較することを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に類義語と対義語、多義的な語句、抽象的な概念を表す語句などについて理解しようとしている。
情報×SDGs				
7月	**メディアの特徴を生かして情報を集めよう** **デジタル市民として生きる** **2時間** ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたこ	1 2	1 メディアを比べて、それぞれの特徴を理解する。 ・P76-77に示されたさまざまなメディアを、「速報性」「詳細さ」「信頼性」の三つの観点で比較し、評価する。 ◇教科書の例を参考に、メディアによって配信日時や情報量に違いがあることに気づかせる。 ・メディアの特徴を踏まえて、P76①-③それぞれの場合にはどれを選ぶとよいか、考える。 →P52「情報整理のレッスン 思考の視覚化」 →P285資「インターネットの活用」 2 災害時の情報収集・情報の読み取りについて考える。 ・P78「やってみよう」に取り組む。 ・災害を想定し、状況に応じてどのようなメディアを選ぶとよいか、また、どのように情報を読み取ればよいかを考える。 ◇「ここをチェック」を参考にして考えるとよい。 3 情報を受け取るときの留意点を考える。 ・P80「デジタル市民として生きる」を通読する。 ・情報の信頼性を判断するポイントについて考える。 ◇「情報の発信源」「発信日時」「情報の根拠」について考えさせるとよい。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →メディアが伝える情報の内容とその根拠の適切さに着目している。 ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ) →メディアの特徴を、表や図などにまとめている。 【思・判・表】「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。(C(1)イ) →メディアの特徴を踏まえ、情報の信頼性を判断するために必要なことについてまとめている。 【態】複数の情報を進んで整理しながら適切に読み取り、学習課題に沿って目的や状況に応じた情報収集のしかたについて考えをまとめようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	となどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)		4 学習を振り返る。 ・メディアから適切な情報を得るためには、どのような方法で、何を確認すべきか、わかったことをまとめる。 ・自分が今後、メディアから情報を得る際に意識していきたいと思うことを伝え合う。	
いつも本はそばに				
7月	**読書を楽しむ** **１時間** ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を読み、さまざまな読書活動を知る。 2「ブックトーク」、「読書ポスター」、「読みたい本のリスト」の中から、取り組む活動を選ぶ。 ◇学校や地域の状況に応じて活動を決めてもよい。また、夏休みを利用した活動としてもよい。 3 選んだ活動に沿って、見通しを立てる。 ・ブックトークの場合は、グループごとにテーマを決め、そのテーマに関するさまざまな本を、魅力が伝わるように紹介する。 ・読書ポスターの場合は、グループでテーマを決め、それに合った本を選ぶ。 ・読みたい本のリストの場合は、身の回りの本の情報などを基に、読書ノートに記録する。 ◇教材文を基に、手順やポイントなどを示した活動計画書を用意し、配布するとよい。 4 グループごとに活動を行い、感想を発表し合う。 ◇教室ではなく、学校図書館で授業を展開することも考えられる。 ◇次の教材「翻訳作品を読み比べよう」と併せて指導することも考えられる。	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。((3)エ) →活動を通して本の魅力を感じ、今後どんな本を読んでいきたいかを考えている。 【態】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで理解し、今までの学習を生かして、本の魅力や感想を共有しようとしている。
7月	**翻訳作品を読み比べよう** **星の王子さま** **コラム** **「わからない」は人生の宝物** **読書案内　本の世界を広げよう** **１時間** ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説などを読み、引用して解	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 二人の翻訳者による「星の王子さま」を読み比べる。 ・翻訳の違いによる作品の印象の違いについて考え、発表し合う。 ◇人物の言動や様子が描かれた表現を基に、人柄や心情の違いを捉えさせる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 翻訳や外国文学について知る。 ・「星の王子さま」やコラム「『わからない』は人生の宝物」を読み、「翻訳」の意味や、翻訳作品・外国文学のおもしろさについて理解する。 ◇学校図書館から本を借りてきて、実物を見せることなども考えられる。 3 P87「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。 →P290資「盆土産」 →P299資「形」	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。((3)エ) →二つの翻訳やコラムを読んで、本や文章には、さまざまなものの見方や考え方が表れていることを理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →二つの翻訳を比較し、表現の違いによる作品の印象の違いについて考えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →翻訳の違いによる作品の印象の違いについて意見を交流し、考えを広げたり深めたりしている。 【態】表現の効果について進んで考え、学習課題に沿って二つの翻訳を比べて感じたことを発表しようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)			
7月	**季節のしおり　夏** ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	－	・夏の行事・暦に関わる言葉や、夏の情景を詠んだ短歌や俳句などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P66「短歌の創作教室」、P110「表現を工夫して書こう」、P224「描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇夏をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →作品中の「夏」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4　人間のきずな				
9月	**ヒューマノイド** **４時間** ◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。(知・技(1)オ) ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1 2 3 4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →P103言の葉 2 場面の展開に注意して、人物の設定を捉える。 ・「現在」と「過去」を区別して読み、「僕」にとって、「三十歳の六月十日」がどんな意味をもつのか、簡潔にまとめる。(課題1-①) ・中学時代のタクジの言動から、人物像を捉える。(課題1-②) 3 過去と現在を結び付けて、登場人物の言動を解釈する。 ・タクジは、なぜ「転ばない」ロボットを作らなかったのか、考える。(課題2-①) ・「タクジ、聞いていた話と違うじゃないか。」とあるが、何が違っていて、そのことを「僕」はどのように感じているか、考える。(課題2-②) →P103カギ「登場人物の言動の意味を考える」 →P276資「『学びのカギ』一覧」(文学) →二次元コード「学びの地図」 ◇中学時代のタクジとの会話や、現在のタクジの言葉に着目して考えるよう促す。 4 作品を読んで考えたことを語り合う。(課題3) ・作品の構成や人物の言動の意味などに対する解釈を基に、この作品のおもしろさや印象に残った点について、語り合う。 →二次元コード「作者メッセージ」 5 学習を振り返る。 ・「ヒューマノイド」の場面の展開には、どんな特徴があったか、自分の言葉でまとめる。 ・作品のどの部分とどの部分を結び付けて、登場人物の言動の意味を解釈したか、自分の言葉でまとめる。 ・友達の解釈を聞いて、新たに気づいた言動の意味や作品のおもしろさを挙げる。	【知・技】話や文章の構成や展開について理解を深めている。((1)オ) →登場人物の言動や伏線に着目し、それらが話の展開にどのように関わっているのかを考えている。 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →過去と現在、伏線と結末を結び付けて、登場人物の言動の意味を解釈している。 【態】登場人物の言動の意味について粘り強く考え、今までの学習を生かして作品の印象を伝え合おうとしている。
9月	**字のない葉書** **３時間** ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1 2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →P109言の葉 →P274「語彙ブック」(結び付きに着目して言葉を広げよう) 2 二つの思い出を整理する。(課題1) ・前半と後半に書かれた、二つの思い出の内容を整理する。 ◇必要に応じて、時代状況を解説する。既習の1年「大人になれなかった弟たちに……」を想起させてもよい。 3 表現に着目して、人物の人柄や心情を読み取る。 ・前半の思い出から想像される「父」の人柄を、文章中の表現を踏まえて簡潔にまとめる。(課題2-①)	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。((3)エ) →随筆の味わい方について考え、日常の読書に生かせそうな点をまとめている。 【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →前半部分と後半部分の人柄や心情の描かれ方を比較し、表現の効果について考えている。 【態】文章の構成や表現の効果について進んで考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	★随筆を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)		・「末の妹」に対する家族の心情を、妹の様子の変化に着目して想像する。(課題2-②) ・なくなった「父」に対して、今の「私」がどんな思いを抱いているか、表現に即して考える。(課題2-③) →P109カギ「表現の効果を考える」 →P276資「『学びのカギ』一覧」(文学) →二次元コード「学びの地図」 ◇前半と後半で、心情や人柄の描かれ方にどんな違いがあるかを考えさせるとよい。	
		3	4 「父」に対する「私」の思いについて考える。(課題3) ・自分が共感できることや、共感しにくいと思うことを発表する。 5 学習を振り返る。 ・随筆の味わい方で、日常の読書に生かせそうな点は何か、自分の言葉でまとめる。 ・「父」という人物を印象深く伝えるために、筆者はどのような工夫をしていたか、考える。 ・随筆と小説の違いについて、考えを交流する。	
9月	**表現を工夫して書こう** **手紙や電子メールを書く** **３時間** ◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ) ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組ませるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 伝える相手や目的、内容を決める。 2 適切な通信手段を選ぶ。 ◇相手や目的に応じて、手紙とメールのどちらを選ぶか考えさせるとよい。 →P288資「いろいろな通信文」	【知・技】 ・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。((1)ア) →何かをお願いする文面などにおいて、どのような言葉を選ぶと、相手に引き受けてもらえるかを考えている。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。((1)カ) →相手や目的に応じて、敬語を適切に使って書いている。
		2-3	3 手紙や電子メールを書く。 ・それぞれの形式に沿って書く。 ・自分の思いや用件が伝わるように、効果的な語句や表現を選んで書く。 →P110カギ「表現を工夫して思いを伝える」 →P112「[推敲] 表現の効果を考える」 →P113「言葉２　敬語」 →P280資「『学びのカギ』一覧」(書く) →二次元コード「学びの地図」 ◇相手や目的に応じて敬語を適切に用いたり、思いや用件が的確に伝わるように具体例を入れたりするなど、表現を工夫させるとよい。 4 学習を振り返る。 ・書いた手紙や電子メールを読み合い、敬語の使い方や表現の工夫について確認し合う。	【思・判・表】「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いや考えが伝わるように、具体的な説明を加えたり、表現の工夫をしたりしている。 【態】自分の考えが伝わる文章になるように積極的に工夫し、学習課題に沿って手紙や電子メールを書こうとしている。
9月	**[推敲]表現の効果を考える** **１時間** ◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ) ◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 遠山さんの手紙の下書きを読み、傍線部①～⑧を書き改める。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 2 点線部㋐㋑について、より効果的な表現を考える。 3 学習を振り返る。 ・手紙を推敲する際のポイントを確認する。 ◇推敲前後を比べて気づいたことや、今後どんなときに生かしていきたいかを交流するとよい。	【知・技】 ・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。((1)ア) →どのような言葉を選ぶと、相手の行動を促すことができるか考えて推敲している。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。((1)カ) →手紙を推敲し、適切な敬語に書き改めている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)			【思・判・表】「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →読み手の立場に立って手紙を推敲し、考えや思いがより伝わるような表現に書き改めている。 【態】進んで文章を整え、今までの学習を生かして手紙を推敲しようとしている。
9月	**言葉２　敬語** **１時間** ◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 導入の例文を読み、敬語の使い方について考える。 2 教材文を読み、敬語の働きや種類について理解する。 3 教材文を読み、敬語の組み合わせについて考える。 ◇P115「生活に生かす」を読み、実際の生活場面で敬語を使うときの注意点について考えさせるとよい。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。((1)カ) →敬語を使う生活場面を想定し、敬語の働きについて理解を深めている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に敬語の働きについて理解しようとしている。
9月	**聞き上手になろう** **質問で思いや考えを引き出す** **２時間** ◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ◎論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)	1 2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 インタビューの準備をする。 ・教材文を読んで、役割を決める。 ・「今、夢中になっていること」や「最近気になるニュース」をテーマに、インタビューの準備を行う。 ・教科書の例を参考に、思いや考えを引き出すためにどのように質問したらよいかを考える。 →二次元コード「インタビューをする」 ◇「話し手としての準備」、「聞き手としての準備」の両方をさせる。 2 インタビューを行う。 ・「話し手」、「聞き手」、「聴衆」の役割を交代しながら、一人5分程度でインタビューを行う。 →P116カギ「質問で思いや考えを引き出す」 →P280資「『学びのカギ』一覧」(話す・聞く) →二次元コード「学びの地図」 →P284資「インタビューをする」 ◇聞き手と聴衆で話しやすい雰囲気を作り出すように促す。 3 学習を振り返る。 ・「話し手」、「聞き手」、「聴衆」それぞれの立場から、気づいたことや考えたことを出し合う。	【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。((1)ア) →どのように質問をすると、相手がさらに話したくなるかを考えている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →話の要旨や展開に注意しながら聞き、話を広げたり深めたりする質問をしている。 【態】論理の展開などに注意して粘り強く聞き、今までの学習を生かして思いや考えを引き出すインタビューをしようとしている。
10月	**漢字２** **同じ訓・同じ音をもつ漢字** **漢字に親しもう３** **１時間** ◎第１学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字	1	1 教材文を読み、同じ訓をもつが、意味の異なる漢字（同訓異字）の使い分けについて理解する。 2 教材文を読み、同じ音をもつ漢字から成る言葉(同音異義語）の使い分けについて理解する。 3 P119の練習問題とP120「漢字に親しもう３」に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」	【知・技】第１学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)ウ) →文脈や言葉の意味に注意して、漢字

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）		→P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308資「二年生で学習した漢字」 →P321資「二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「［練習］小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	を読んだり、書いたりしている。 【態】積極的に同訓異字や同音異義語を理解し、学習課題に沿って漢字を読んだり書いたりしようとしている。
５　論理を捉えて				
10月	**モアイは語る——地球の未来** **５時間** ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎文章の構成や論理の展開について考えることができる。（思・判・表C(1)エ） ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★論説の文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。（思・判・表C(2)ア）	1 2 3 4-5	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 文章の構成に着目し、内容を捉える。 ・文章全体を序論・本論・結論に分ける。（課題1-①） ◇筆者の主張が書かれている段落（結論）を見つけ、その主張を支えるために序論と本論があることを押さえるとよい。 ・問いと答え、その根拠として示された事実を表にまとめる。（課題1-②） 3 論理の展開を吟味する。 ・筆者が考えるイースター島と地球との共通点とは何か、考える。（課題2-①） ・「モアイの秘密」を解き、それを基に地球の未来を語る筆者の論理の展開について、「効果」や「説得力」という観点で吟味し、話し合う。（課題2-②） →P129カギ「論理の展開を吟味する」 →P130「思考のレッスン1 根拠の吟味」 →P278資「『学びのカギ』一覧」（説明文） →二次元コード「学びの地図」 ◇本論で述べられたイースター島の事例が、地球の未来を語る上での根拠となっていることに気づかせる。 4 筆者の主張に対する意見を文章にまとめる。（課題3） ・自分の知識や経験と結び付け、立場を明確にして、200字程度でまとめる。 ◇P127「モアイ・イースター島研究について」なども参考に、筆者の主張に対する自分の立場を明確に示させる。 5 学習を振り返る。 →P129言の葉 ・筆者は本文の中で、何を根拠に、どのような意見を述べているかを挙げる。 ・論理の展開について吟味するとき、最も説得力を感じた友達の意見はどのようなものだったか、自分の言葉でまとめる。 ・論理の展開を吟味するときに大切だと感じたことを挙げる。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） →筆者の意見（主張）がどのような根拠によって支えられているかを捉えるとともに、より適切な根拠の在り方を理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。（C(1)エ） →文章全体の構成を捉え、意見と根拠の結び付きや論理の展開を吟味している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） →自分の知識や体験と結び付けながら、筆者の主張に対する自分の意見を文章にまとめている。 【態】論理の展開について粘り強く吟味し、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
10月	**思考のレッスン１** **根拠の吟味** **１時間** ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を読み、根拠の適切さの吟味のしかたと、意見の説得力の高め方について理解する。 ◇P130に示されているような事例が身の回りにないか、考えさせるとよい。 2 問題1、2に取り組む。 ◇P131のチェックポイントで、根拠を吟味する観点を押さえるとよい。 3 学習を振り返る。 ・文章を読んだり、話を聞いたりするときには、根拠を把握し、その根拠や「理由づけ」が適切かどうかを吟味することが大切だということを確認する。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →根拠の適切さを吟味する方法を理解して、問題1、2に取り組んでいる。 【態】今までの学習を生かして、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。
10月	**適切な根拠を選んで書こう** **意見文を書く** **５時間** ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	1 2 3-4 5	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組ませるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 課題を決め、調べる。 ・地域や社会で話題や問題になっていることなどの中から課題を決める。 →P14「続けてみよう」 →P282資「発想を広げる」 →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) ・課題に関する情報を集めて、自分の意見を決め、それを支える根拠を探す。 2 構成を考える。 ・適切な根拠を選び、「理由づけ」を考える。 →P130「思考のレッスン1 根拠の吟味」 ◇根拠と「理由づけ」についてグループ内で助言を求める場をもたせてもよい。 ・読み手にとってわかりやすい段落の構成を考え、全体の構成を決める。 →P133カギ「適切な根拠を選び、構成を工夫する」 →P280資「『学びのカギ』一覧」(書く) →二次元コード「学びの地図」 →P341資「ICT活用のヒント」 ◇タブレット端末などを活用して、文章の構成を検討させてもよい。 3 意見文を書く。 ・600～800字程度でまとめる。 ・根拠の適切さ、「理由づけ」の説得力などの観点で推敲する。 →P134言の葉 4 交流する。 ・意見文を友達と読み合い、納得できた点や疑問点、改善点などを伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・どのようなことに注意して、自分の意見を支える根拠を選んだか、確かめる。 ・自分の意見を明確に伝えるために、どのような基準で根拠を選び、どのように構成を工夫したか、自分の言葉でまとめる。 ・意見をわかりやすく伝える工夫の中で、次に使ってみたいものを一つ挙げる。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →自分の意見を支えるための適切な根拠を選んでいる。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) →段落のまとまりを意識して、自分の意見が明確に伝わるよう文章の構成を決めたり、段落の順序を検討したりしている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →根拠として適切な事実と、意見と根拠を無理なく結び付ける「理由づけ」を示し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 【態】粘り強く根拠の適切さを考え、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			◇P132「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	
10月	**聴きひたる　月夜の浜辺** **１時間** ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読音声を聴き、言葉の響きやリズムを味わう。 →二次元コード「朗読音声」 ・七音の繰り返しのリズムや反復表現に注目する。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・「忍びず」、「袂」、「沁みる」などの語句の意味を確認する。 2 表現に着目し、その効果について考える。 ・反復表現や対句表現、反語表現に着目し、詩の情景や作者の心情を想像する。 ・七音の繰り返しのリズムや反復の効果を味わい、情景や心情を想像しながら読む。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →詩の中の語句に着目し、詩全体の世界を豊かに想像している。 【態】進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。
10月	**季節のしおり　秋** ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	－	・秋の行事・暦に関わる言葉や、秋の情景を詠んだ短歌や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P66「短歌の創作教室」、P110「表現を工夫して書こう」、P224「描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇秋をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →作品中の「秋」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
6　いにしえの心を訪ねる				
10月	**音読を楽しむ　平家物語** **「平家物語」の世界／** **「平家物語」の主な登場人物たち** **１時間** ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。(知・技(3)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 「平家物語」の冒頭部分を音読し、独特の調子とリズム、言葉の響きを味わう。 →二次元コード「『平家物語』冒頭 朗読音声」 2「『平家物語』の世界」「『平家物語』の主な登場人物たち」を読み、「平家物語」の概要や文章の特徴、主要な登場人物やあらすじについて知る。 →P304資「敦盛の最期」 3 冒頭部分の現代語訳を読み、「平家物語」を貫く「無常観」を知る。 4 作品を貫く「無常観」と重ねて、再度冒頭部分を朗読する。 ・歴史的仮名遣いに注意して読む。 ◇漢語を交えた七五調のリズムを意識して暗唱させる。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →漢語を交えた独特の調子とリズムを捉えて朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。((3)イ) →冒頭部分の現代語訳や、「平家物語」のあらすじを読んで、「無常観」を感じ取っている。 【態】進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
11月	**扇の的 ――「平家物語」から** **３時間** ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通し	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 →二次元コード「『平家物語』朗読音声」	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →「平家物語」の、漢語を巧みに交えた独特の調子やリズムを意識して朗読している。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	て、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。(知・技(3)イ) ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★古典作品などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	2 3	2 朗読して古典のリズムを楽しむ。(課題1) ・「平家物語」の冒頭部分や「扇の的」の原文を繰り返し朗読し、古文独特の調子やリズムを楽しむ。 3 登場人物の言動から、心情を考える。 ・与一、見送る源氏の武士たち、義経の思いをそれぞれの言動から考える。(課題2-①) ・「あ、射たり。」と言った人と、「情けなし。」と言った人の気持ちについて話し合う。(課題2-②) 4 読み取ったことを基に自分の考えを述べる。(課題3) ・「平家物語」の登場人物たちの言動から読み取ったものの見方や考え方に対する、自分の考えを述べる。 ◇登場人物の言動を文章から引用して、考えたことを述べさせるとよい。 ◇P141「『平家物語』の世界」、P151「弓流し」の場面、P304資「敦盛の最期」を読んで、武士の生き方や価値観などを捉えさせてもよい。 5 学習を振り返る。 ・朗読を通して、古文の調子やリズムについてどんなことを感じたか、自分の言葉でまとめる。 ・登場人物の言動を通して、共感できた人物、できなかった人物は誰か、自分の言葉でまとめる。 ・作品を読んで、現代に通じる(現代とは違う)と感じた部分などを挙げる。	・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。((3)イ) →与一や義経の言動、扇の的を射落とした後の人々の反応に着目し、古人のものの見方や考え方を捉えている。 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →「扇の的」での与一の言動や「弓流し」の場面での義経の言動の意味について考え、作品を読み深めている。 【態】登場人物の言動の意味について進んで考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
11月	**仁和寺にある法師** **――「徒然草」から** **[書く]人物の特徴を捉えて論じよう** **3時間(読②書①)** ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。(知・技(3)イ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★古典作品などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・	1 2 3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 →二次元コード「『徒然草』朗読音声」 →P156「係り結び」 2 現代語訳や注を手がかりにして読み、文章の内容を捉える。(課題1) 3 本文を読み、内容をまとめる。 ・仁和寺の法師の勘違いの内容を、P155脚注の絵を使って説明する。(課題2-①) ◇仁和寺の法師と同じような経験をしたことがないか、考えさせてもよい。 ・作者が仁和寺の法師の勘違いをどのように捉えているか、判断できる部分を古文から抜き出す。(課題2-②) 4 作者の考え方について話し合う。(課題3) ・仁和寺の法師の描き方や、「少しのことにも……」の一文から、作者のものの見方や考え方、人物像を想像して話し合う。 5 学習を振り返る。 ・この作品には、どのような「ものの見方や考え方」が表れていたか、自分の言葉でまとめる。 ・どの記述を基に、作者のものの見方や考え方、人物像を想像したか、確かめる。 ・作者のものの見方や考え方は、現代でも通用するかどうか考える。 6 人物の特徴を捉えて、論じる。 ・P157「人物の特徴を捉えて論じよう」を読み、手	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。((3)イ) →現代語訳や語注などを手がかりにして読み、文章に表れた作者のものの見方、考え方を理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →仁和寺の法師の描き方などを踏まえて、作者のものの見方について考えたことを話し合っている。 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) →人物像が明確に伝わるように、文章の構成を工夫して、古典の登場人物について論じている。 【態】積極的に知識や経験と結び付けて考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	判・表C(2)イ) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)		順を確かめる。 ・「扇の的」や「仁和寺にある法師」の登場人物の中から、論じる人物を決める。 ・選んだ人物の特徴を捉えて、人物像を300字程度の文章にまとめる。 →P270「語彙ブック」(人物を表す言葉) 7 文章を友達と読み合い、感想や意見を述べ合う。 8 学習を振り返る。 ・原文の内容を踏まえて登場人物の特徴を捉え、わかりやすく伝えられるように文章の構成を工夫したか、確かめる。	を書こうとしている。
11月	**漢詩の風景** **3時間** ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。(知・技(3)イ) ◎観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★漢詩などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1 2 3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 →二次元コード「漢詩 三編 朗読音声」 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇返り点や訓読のしかたを振り返るとよい。 2 漢詩に描かれた情景や心情を読み取る。(課題1) ・漢詩に描かれた季節、情景、作者の心情を、解説の文章を手がかりにして読み取る。 3 構成や表現の効果を味わう。 ・それぞれの漢詩について、筆者が注目した構成や表現とその効果を、簡潔にまとめる。(課題2-①) ・漢詩の中から気に入った表現を選び、引用して、表現の効果やよいと思った理由を伝え合う。(課題2-②) 4 漢詩の特徴を生かして朗読する。 ・グループで朗読の会を開き、漢詩に描かれた情景や心情、構成や表現の効果などが伝わるように工夫して朗読する。(課題3-①) ◇漢詩特有の言葉遣いや調子に着目させるとよい。 ・何を伝えるために、どんな工夫をしたかを交流し、互いの朗読の優れたところを伝え合う。(課題3-②) ◇P164「律詩について」を読み、絶句と律詩の違いを理解させる。好きな漢詩を選ぶ際、教材の三つの漢詩に「春望」を加えることもできる。 5 学習を振り返る。 ・漢詩のどのような特徴が伝わるように朗読したか、自分の言葉でまとめる。 ・漢詩に使われている表現の中で特に効果的だと感じたものは何か、自分の言葉でまとめる。 ・朗読のしかたを工夫したり、友達の朗読を聞いたりする中で、新たに発見したことや、理解が深まったことを挙げる。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →漢詩の構成や表現の特徴を意識して朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。((3)イ) →解説の文章を手がかりにして、詩の作者の思いを想像し、古人のものの見方、考え方について考えを深めている。 【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →好きな漢詩を選び、気に入った表現や句を引用しながら、構成や表現の効果を伝え合っている。 【態】進んで漢詩の構成や表現の効果を考え、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
7　価値を語る				
11月	**君は「最後の晩餐」を知っているか** **「最後の晩餐」の新しさ** **5時間** ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎観点を明確にして文章を比較	1-2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 二つの文章を比べながら読み、内容を捉える。 ・筆者の着眼点や、筆者が端的に「最後の晩餐」を	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ) →二つの文章を比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を表に整理している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にし

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★評論や解説の文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	 3-4 5	評した言葉に、印を付ける。(課題1-①) →P179 言の葉 ・「君は『最後の晩餐』を知っているか」の筆者が、「最後の晩餐」を「かっこいい」と思った理由を、本文中の言葉を使って説明する。(課題1-②) ・「『最後の晩餐』の新しさ」で筆者が指摘する「新しさ」について、本文で取り上げられている「新しさ」の要素を挙げる。(課題1-③) 3 文章を比較し、気づいたことを話し合う。(課題2) ・「最後の晩餐」の魅力を説明する方法(説明のしかた)や、文章の書き方、表現の特徴といった観点で二つの文章を比較し、気づいたことやその効果について考えたことを話し合う。 →P179 カギ 「観点を明確にして文章を比較する」 →P278 資 「『学びのカギ』一覧」(説明文) → 二次元コード 「学びの地図」 ◇二つの文章を表に整理して観点ごとに比較させる。P179に示されている観点を参考にしてまとめるとよい。 4 筆者の意図や目的を考える。(課題3) ・筆者はそれぞれ、読者に何を伝えるためにこのような書き方を選んだのか、文章を書いた目的と書き方の特徴を結び付けて考える。 → 二次元コード 「筆者インタビュー」 5 学習を振り返る。 ・文章に含まれる情報を表で整理することには、どんな効果があるか、自分の言葉でまとめる。 ・同じ題材について述べた二つの文章には、どんな違いがあったか、自分の言葉でまとめる。 ・文章の比較を通して気づいたことの中で、次に論説や評論を読むときに生かせそうなことを挙げる。	て文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ) →文章の構成や表現の特徴などについて、二つの文章を比較して発見したことを話し合っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →二つの文章を比較したり、書き方の特徴を捉えたりすることで、筆者が文章を書いた意図や目的についての自分の考えを深めている。 【態】進んで観点を明確にして文章を比較し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。
11月	**思考のレッスン２** **具体と抽象** **１時間** ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を読み、具体と抽象について理解する。 ◇「具体」、「具体化」、「抽象」、「抽象化」などの用語を理解させ、今後の学習に生かせるようにしておくとよい。 2 問題1、2に取り組む。 3 学習を振り返る。 ・考えを伝え合うときに、具体と抽象の観点を意識しながら話し合うと理解が深まることを確認する。 → 二次元コード 「漢字の練習」	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →複数の情報をまとめて抽象化したり、言葉の意味を具体例を挙げて説明したりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に具体と抽象の関係について理解しようとしている。
12月	**季節のしおり　冬** ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	−	・冬の行事・暦に関わる言葉や、冬の情景を詠んだ短歌や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P66「短歌の創作教室」、P110「表現を工夫して書こう」、P224「描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇冬をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →作品中の「冬」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
12月	［話し合い（進行）］ **話し合いの流れを整理しよう** **１時間** ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 進行役になったつもりで話し合いの様子を視聴する。 →二次元コード「話し合いの様子」 2 進行役の最後の発言に続く形で、参加者から出た意見をまとめる。 ◇要点を絞ってメモを取るように促す。 3 P184下段の「話し合いの流れを整理するために」を参考に、まとめた意見を見直す。 ◇単なる意見の羅列ではなく、意見どうしの関係や、意見に対する評価も合わせてまとめるよう促す。 4 見直して気づいたことを手がかりに、話し合いの流れを整理するときに必要なことをグループで話し合う。 5 学習を振り返る。 ・話し合いの流れを整理する際のポイントを確かめる。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →意見と根拠の関係に注意して、話し合いの内容を聞き取っている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) →意見の内容や意見どうしの関係に気をつけて、話し合いの流れを整理している。 【態】話し合いの流れを整理するときに必要なことを進んで考え、今までの学習を生かして話し合おうとしている。
12月	**文法への扉２** **走る。走らない。走ろうよ。** **文法２　用言の活用** **２時間** ◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(知・技(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 P185の導入や解説を読み、動詞の語の形の変化のしかたに規則性がありそうなことを知る。 →二次元コード「文法ワーク」 2 P246「文法２　用言の活用」を読み、「活用」の意味や活用形などの用語、動詞・形容詞・形容動詞の活用について理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 →二次元コード「練習問題」 ◇必要に応じて、P250の活用表を参照し、表の見方や語の変化の規則性を確認するとよい。	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。((1)オ) →用言の活用形と活用の種類について、語例を基に理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に用言の活用について理解しようとしている。
12月	**立場を尊重して話し合おう** **討論で視野を広げる** **４時間** ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)	1 2 3-4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 テーマについて情報を集める。 ・テーマと用語の定義を全体で確認する。 ・各自、現状やメリット・デメリットを調べ、根拠となる情報を集める。 →P14「続けてみよう」 →P282資「発想を広げる」 →二次元コード「表現テーマ例集」 ◇賛否や是非の分かれるものを選ばせるとよい。 2 立場に分かれ、考えをまとめる。 ・立場（肯定側・否定側）を決め、意見と根拠、理由づけを整理する。 →P130「思考のレッスン1 根拠の吟味」 →P132「適切な根拠を選んで書こう」 3 グループで討論する。 ・司会1名を決め、肯定側2名・否定側2名で討論する。 ◇グループの中で役割を交代しながら討論を行うとよい。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →適切な根拠となる情報を集め、意見と根拠、理由づけを整理している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) →互いの意見の共通点や相違点、話し合いの論点を踏まえて質問したり反論したりし、振り返りにおいて自分の考えをまとめている。 【態】進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			→P116「聞き上手になろう」 →P183「[話し合い（進行）] 話し合いの流れを整理しよう」 →P187カギ「互いの立場や意見を尊重する」 →P280資「『学びのカギ』一覧」（話す・聞く） →二次元コード「学びの地図」 →二次元コード「討論をする」 ◇タブレット端末などを用いて、討論の様子を録画させておくとよい。 →P341資「ICT活用のヒント」 4 討論を振り返る。 ・相手側の意見や質問などを通して得られた新たな気づきを報告し合う。 ・司会は、肯定側・否定側のよかった点を伝え、共有する。 ◇録画を見て振り返るようにするとよい。 5 学習を振り返る。 ・意見を裏づける適切な根拠を示すために、どんなことに気をつけたか、自分の言葉でまとめる。 ・異なる立場や意見を尊重しながら話し合ううえで、どのような発言が効果的だったか、確かめる。 ・実際に体験してわかったことを基に、討論が役立ちそうな場面を挙げる。 ◇P186「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	
12月	**漢字に親しもう４** **１時間** ◎第１学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	1	1 P190「漢字に親しもう４」に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308資「二年生で学習した漢字」 →P321資「二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】第１学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
いつも本はそばに				
12月	**「自分らしさ」を認め合う社会へ** **父と話せば／** **六千回のトライの先に** **読書案内　本の世界を広げよう** **１時間** ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。（知・技(3)エ） ◎文章を読んで理解したことや	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 P192「父と話せば」を通読する。 ◇筆者の著書を紹介するとよい。 2 P195「六千回のトライの先に」を通読する。 ◇原典の本を紹介するとよい。 3 感想を伝え合う。 ・教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、初めて知ったこと、興味をもったこと、疑問に思ったことなどを伝え合う。 4 P200「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。（(3)エ） →実体験を基に書かれた作品の魅力に触れ、今後読みたい本を選んでいる。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） →教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、感想を伝え合っている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)		→P290資「盆土産」 →P299資「形」 →二次元コード「漢字の練習」	【態】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして感想を伝え合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
8　表現を見つめる				
1月	**走れメロス** **［書く］作品の魅力をまとめ、語り合おう** **漢字に親しもう５** **８時間（読⑥書②）** ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)エ） ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。（思・判・表C(1)イ） ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★小説を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。（思・判・表C(2)イ） ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。（思・判・表B(2)ア）	1-2 3-5 6-8	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇初読の感想を書かせておくと、課題3で作品の魅力を語る際に、学習の初めと終わりで作品の印象や自分の考えがどのように変わったかを振り返ることもできる。 2 作品の設定と場面の展開を押さえる。（課題1） ・作品の設定を確かめ、人物、時、場所、出来事などに着目して幾つかの場面に分ける。 3 場面の展開に即して人物像を読み取る。 ・冒頭からメロスが王城を出発するまでの場面で、メロスと王はどんな人物として描かれているかを考える。（課題2-①） ・村から刑場に向かう途中、メロスの考え方や心情は、どんな出来事をきっかけに、どのように変化したかを考える。（課題2-②） ・王の考え方や心情は、何をきっかけにどう変化したかを考える。（課題2-③） →P221カギ「人物像に着目する」 →P276資『学びのカギ』一覧」（文学） →二次元コード「学びの地図」 ◇場面の展開と人物像の変化を結び付けて読み取らせるとよい。 4 作品の魅力をまとめ、語り合う。（課題3） ・自分が感じた作品の魅力を文章にまとめる。 ・まとめた文章を基に、作品の魅力をグループで語り合う。 →P221言の葉 ◇原作（詩「人質」シラー作）を合わせて読み、構成や表現の特徴について、共通点・相違点を整理し、「走れメロス」の魅力を考える学習も考えられる。 →P179カギ「観点を明確にして文章を比較する」 5 学習を振り返る。 ・どの語句に着目して、作品の魅力を語ったか、自分の言葉でまとめる。 ・友達との交流で新しく気づいた作品の魅力にはどんなものがあるか、自分の言葉でまとめる。 ・他の文学作品を読むときに生かせそうな、分析の観点を挙げる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)エ） →作品中の漢語を和語に置き換えると、印象がどのように変わるかを考えている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。（C(1)イ） →メロスや王の言動に着目して、考え方や心情の変化を読み取っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） →読み深めたことや、文学の読み方に関する知識・経験を生かして作品の魅力を分析し、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。（B(1)ウ） →登場人物の人物像や表現のしかたなど、観点を明確にして作品の魅力を文章にまとめている。 【態】登場人物の言動の意味などについて粘り強く考え、学習の見通しをもって作品の魅力を文章にまとめようとしている。
	◎第１学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にし		6 P222「漢字に親しもう５」に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308資「二年生で学習した漢字」 →P321資「二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「［練習］小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】第１学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	て、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)			
1月	**文法への扉３　一字違いで大違い** **文法３　付属語** **２時間** ◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(知・技(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 P223の導入や解説を読み、付属語を使い分けることで内容を的確に伝えられることを知り、その働きや種類について学ぶことを理解する。 →二次元コード「文法ワーク」 2 P251「文法３　付属語」を読み、助動詞や助詞の種類や働きについて理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 →二次元コード「練習問題」 ◇必要に応じて、P256「口語助動詞活用表」を参照し、活用形や接続のしかたについて確認するとよい。	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。((1)オ) →助詞・助動詞の働きや種類について理解し、文や文章で使われている助詞や助動詞の意味・用法を判別している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に助詞や助動詞の働きについて理解しようとしている。
1月	**描写を工夫して書こう** **心の動きが伝わるように物語を書く** **５時間** ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(思・判・表B(2)ウ)	1 2 3-4 5	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組ませるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 題材を決める。 ・日常生活を振り返り、「心が動いた瞬間」を書き出し、整理する。 →P14「続けてみよう」 →P66「短歌の創作教室」 →P282資「発想を広げる」 →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) 2 設定や構成を考える。 ・設定（時、場所、登場人物）を考える。 ・自分の心情や考えが変化した場面を中心に、あらすじを考える。 ・状況設定・発端、展開、山場、結末の流れで構成を考える。 3 物語を書く。 ・描写を工夫して物語を書く。 ・書きあがったら、推敲する。 ◇これまでに学習してきた物語や小説の表現を振り返らせ、どんな点を生かしたいかを考えさせるとよい。 ◇登場人物の呼称を一人称、三人称のどちらかに決め、書き手の視点を貫かせる。 →P204「走れメロス」 →P225カギ「表現の効果を考えて描写する」 →P227言の葉 →P227「達人からのひと言」 →P268「語彙ブック」(感覚で捉えた言葉) →P280資「『学びのカギ』一覧」(書く) →二次元コード「学びの地図」 4 作品を読み合う。 ・作品を読み合い、表現の工夫とその効果について、感想や助言を伝え合う。 ・友達の感想や助言などを踏まえ、自分の作品の	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →これまでに読んだ物語や小説の表現を参考にして、場面の様子や人物の心情を表す語句を使って書いている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →読み手が場面の様子や人物の心情を具体的に想像できるように、表現の効果を考えながら描写を工夫している。 ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →書いた物語を友達と読み合い、よい点や改善点を伝え合っている。 【態】粘り強く描写を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			よい点や改善点を見いだす。 ◇作品評価の観点を示したワークシートなどを用意し、それに基づいて交流させるとよい。 ◇タブレット端末などの書き込み機能を活用して、助言させ合ってもよい。 →P341資「ICT活用のヒント」 5 学習を振り返る。 ・新たに使えるようになった言葉や表現には、どんなものがあるか、挙げる。 ・心が動いた瞬間を読み手に伝えるために、表現においてどのような工夫をしたか、自分の言葉でまとめる。 ・物語を書いたり作品を読み合ったりする中で気づいた、描写を工夫することのよさや効果について、話し合う。 ◇P224「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	
2月	**言葉３　話し言葉と書き言葉** **２時間** ◎話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 導入の例文から、話し言葉と書き言葉の違いについて考える。 ◇学校生活の話題を、簡単な話し言葉と書き言葉で表現してその違いに気づかせるとよい。 2 音声の性質から話し言葉の特徴を、文字の性質から書き言葉の特徴を捉え、それぞれの伝え方の注意点や工夫について理解する。 ・同音異義語の伝え方を理解する。(話し言葉) ・漢字、平仮名、片仮名、句読点、常体・敬体の使い方に注意する。(書き言葉) ◇P229「生活に生かす」を用いて、SNSでのコミュニケーションを考える学習につなげることもできる。	【知・技】話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。((1)イ) →話し言葉と書き言葉について、それぞれの特徴を理解し、表現する際にどのような注意が必要かを考えている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとしている。
2月	**漢字３　送り仮名** **２時間** ◎第１学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1 2	1 導入の例から、送り仮名が漢字の読みを明らかに示すために付けられていることを確認する。 2 教材文を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解する。 ◇P230下段「活用のある語」では、表中の［　］に活用語尾を直接書き込んでもよい。 ◇活用語尾などについて、P246文法2「用言の活用」で確認させる。 3 P231の練習問題に取り組む。 ◇教材の語以外に、間違えやすい送り仮名にはどのようなものがあるかを考えさせるとよい。 →P321資「二年生で学習した音訓」 →二次元コード「漢字一覧表」	【知・技】第１学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)ウ) →送り仮名に注意して、漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
2月	**国語の学びを振り返ろう** **「国語を学ぶ意義」を考え、コピーを作る** **４時間（話聞①書③）** ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 対話を通して考える。 ・1年間の学習を振り返り、できるようになったことや、自分が変わったと思うことを語り合う。 ・「国語を学ぶ意義」を考える。 ◇P6「学習の見通しをもとう」を開いて学習した内容を振り返らせるとよい。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →これまでの学習活動における具体的な変化を抽象化してまとめている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	2 3-4	→P233カギ「これまでの学びを価値づける」 →P234言の葉 →P280資「『学びのカギ』一覧」(話す・聞く／書く) →二次元コード「学びの地図」 2 コピーにまとめる。 ・自分が考える「国語を学ぶ意義」を、コピーにまとめる。 3 コピーの説明を書く。 ・そのコピーを付けた意図や理由を、200～300字程度で説明する。 4 クラスで共有し、交流する。 ・作品を読み合い、学びの価値づけ方や解説のしかたについて、よいと思った点やもっと知りたい点などを伝え合う。 ◇タブレット端末などのコメント機能を活用して、交流させてもよい。 →P341資「ICT活用のヒント」 5 学習を振り返る。 ・1年間の学びを振り返る際に、具体的な変化をどのように抽象化してまとめたか、確かめる。 ・対話の際に、互いの考えを尊重しながら、さらに考えを深めるために、どのような点を心がけたか、自分の言葉でまとめる。 ・作品に付いたコメントから見いだした、自分の文章のよい点や改善点は何か、挙げる。 ・友達の作品を読み、さらに考えが深まったことや新しく気づいたことを挙げる。 ◇P232「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) →互いの考えを尊重しながら対話し、それを通して自分の考えを整理したり、価値づけたりしてまとめている。 ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →自分の作品の読み手からのコメントを通して、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 【態】粘り強く国語を学ぶ意義を考え、今までの学習を生かしてコピーにまとめてクラスで交流しようとしている。
3月	**鍵** **２時間** ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩歌を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1 2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 詩を音読する。 2 印象に残った語句や表現を話し合う。(課題1) ・詩の中の印象に残った語句や表現を挙げ、感想や疑問を出し合う。 3 表現の意味を考える。 ・詩の中に書かれた「鍵」の特徴を発表する。(課題2-①) ・「鍵」によって「ひらかれる」「扉」の向こうには、どんなものがあるか考える。(課題2-②) 4 作者のものの見方について語り合う。(課題3) ・「私」は「この世」をどんな世界と捉えているのか、自分が考える「この世」との共通点や相違点を基に、作者のものの見方について考え、友達と語り合う。 ◇詩から読み取った作者のものの見方について、自分のこれまでの知識や経験と結び付けて考えさせるとよい。 5 学習を振り返る。 ・詩の中で使われているどのような語句に着目したか、挙げる。 ・作者のものの見方を考える手がかりとなった友達の発言にはどんなものがあったか、振り返る。 ・「鍵」という作品との出会いで自分の考えがどう変化したか、ひと言で表す。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →詩の中で使われている言葉に着目し、語感や表現の効果を考えている。 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →自分の知識や経験と結び付けて、作者のものの見方について考えている。 【態】詩を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
国語の力試し				
3月	**国語の力試し** **３時間** ◎類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解することができる。(知・技(1)エ) ◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ) ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★古典作品などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア) ★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)	1 2 3	**1** P263-266の問題に取り組む。 ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 ◇タブレットやパソコンで問題に取り組んだり、解答を確認したりさせるとよい。 →二次元コード「タブレットやパソコンで問題に取り組もう」 ◇「話す力・聞く力」の問題を解くときには、教科書の文章を読ませてもよいが、二次元コードから音声を聞かせ、メモを取らせるほうが望ましい。 →二次元コード「話す力・聞く力」 **2** P262の二次元コードから、発展問題に取り組む。 →二次元コード「タブレットやパソコンで問題に取り組もう」 ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 **3** 振り返る。 ・間違ったところを改めて見直したり、それぞれの設問に関連する教材に立ち戻って、学習の要点を確認したりする。 →P36「枕草子」 →P109カギ「表現の効果を考える」 →P29「［聞く］意見を聞き、整理して検討する」 →P112「［推敲］表現の効果を考える」 →P110カギ「表現を工夫して思いを伝える」 →P113「言葉２　敬語」 →P72「言葉１　類義語・対義語・多義語」	【知・技】 ・類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解している。((1)エ) →類義語の意味や用法を比較し、文脈に応じてより適した語を選んでいる。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。((1)カ) →敬語の働きや種類を理解し、電子メールの下書きを推敲したり、文面を書いたりしている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →「枕草子」の原文と、二つの現代語訳を比較して読み、文章の中心的な部分を捉えている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、表現の効果について考えている。(C(1)エ) →「枕草子」の二つの現代語訳を比較して読み、表現の効果について考えている。 ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →「卒業生に贈る言葉」についての野口さんの提案を論理の展開に注意して聞き、伝えたいことを捉えるとともに、自分の考えをまとめている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →気持ちや用件が的確に伝わるように電子メールを書いている。 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →読み手の立場に立ち、表現の効果を考えて電子メールを推敲している。 【態】今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。